

道徳の時間で活用する ～伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度～

萩市立育英小学校 須郷 恵子

1 本場面におけるポイント

- 「わたしたちの道徳」の海の写真と須佐の海を比べたり、「わたしたちの道徳」に須佐の海のイメージを書き込んだりすることで、日頃、意識していない須佐の海のすばらしさを感じ取り、愛着をもつようにする。
- 心の先生である「漁師の一木さん」の活動や願いに触れることで、須佐の海を知り、自分も関わっていこうとする大切さに気付くようにする。
- 振り返りの場面で、「わたしたちの道徳」に自分が描く須佐の海の姿と守るためにできることを吹き出しに書き込むことで、須佐の海を大切にしていこうとすることを自覚し、自分も関わって、よりよい須佐の海にしていこうとする気持ちをもつようにする。

2 授業の実際

1 主題名 須佐の海をきれいに

2 ねらい

豪雨災害後の須佐の海の変化に気付き、海の森をつくる会の活動や願いを知ること、須佐の海に親しみ、愛着をもつことのできる心情を育てる。

3 展開

(1) 導入

教師：この海の写真を見て、どう思いましたか？

A児：わあ～きれい。広いなあ。海で泳ぎたいなあ。

教師：須佐の海は、この海の写真と比べて、どうでしょう？須佐の海の思い出や須佐の海について思っていることを書きましょう。

B児：須佐の海もこの写真の海と同じくらいきれいだよ。家族で魚釣りをして楽しかったなあ。

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等



「わたしたちの道徳」P112

「わたしたちの道徳」1・2年生用P112～113の海の写真を見ながら、須佐の海の情景を想起させたり、海的美しさを改めて感じさせたりする。

「わたしたちの道徳」1・2年生用P111に、須佐の海の思い出や思いを書くことによって、須佐の海によさに思いを馳せるようにする。



「わたしたちの道徳」P111

(2) 展開

教師：豪雨災害で、須佐の海がこんなに変わったよ。何が変わりましたか？

A児：海藻が枯れたよ。魚がいなくなったよ。海が泥だらけになったよ。貝が、逃

げられずに死んでしまったよ。

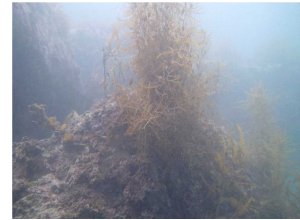
教師：漁師の一木さんは、この海を見て、どんなことを思ったでしょう。

B児：悲しい。魚がいなくなって、さみしい。あんなにきれいだったのに。

C児：自分だったら、「せっかく今まで『海の森をつくろう』とがんばってきたのに、無駄になってしまった。あきらめるしかない。」と思うよ。

教師：このままでいいの？何か、できないの？

D児：いや、昔のきれいな海にしたいな。たくさん魚が安心して住める海にしたいよ。海藻を広げる方法があるはずだ。



□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

実際の須佐の海の映像を比較させることによって、どれだけ大変なことになったのかを視覚的に捉えさせるようにする。一木さんから、須佐の海の状況や一木さん自身の強い意志や願い、「海の森をつくろう」の取組を聞くことで須佐の海を守ろうという思いを高めるようにする。



(3) 終末

教師：おすすめの場所として、とっておきの須佐の海を絵で紹介しましょう。そんな海にするために、自分たちにできることは何でしょう。吹き出しに書いてみましょう。

A児：海を汚さないようにするよ。海や魚のことを調べるよ。海に遊びに行くよ。

B児：ブロックペイントに取り組んで、魚のお家を作ってあげるよ。

C児：須佐の海のことや「海の森をつくろう」の会のことを須佐の人に知ってもらうために、育英発表会で発表しよう。

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

町を紹介する新聞づくりで『私のおすすめの場所』コーナー「わたしたちの道徳」P153を活用する。こんな須佐の海にしたいという思いがこもった絵と守るために自分にできることを吹き出しに書き表すことで、須佐の海への愛着を深める。



「わたしたちの道徳」P153

3 実践を振り返って



ブロックペイント

導入で「わたしたちの道徳」を活用することにより、児童がきれいな須佐の海よさを感じることができ、児童の現状での捉えを知ることができた。終末の活用では、須佐の海との関わり方を明確にすることで、より身近に須佐の海を考え、関わっていかうとする意欲へとつなげることができた。この学習を通して、ブロックペイントに取り組む意味を理解できたことが大きな学びになった。